

令和6年1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和6年1月9日（火） 11時00分～11時55分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ11社 13名

会見内容

1. 話題提供（3項目）

はじめに 新年の抱負について

- 今年最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 元旦に震度7を記録する「能登半島地震」が発生し、また翌日には、羽田空港で事故が発生しました。多くの亡くなられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されている方々にお見舞い申し上げます。
- また、被災地におきまして、一人でも多く救出するため、関係者の皆様にご尽力いただいているところであり、私どもも必要な支援についてなど様々な情報をいただいているところで、これをしっかり行っていくとともに、あわせて、今日に至るまでいただいた情報等を踏まえていながら地域の対策の点検や備えを進めていこうと考えているところです。
- 去年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、様々な活動が戻ってきた中で、昨年9月にアジア地域で初めてとなる「アドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）2023」が北海道で開催され、釧路にも多くの主要な方々に来ていただきました。
その中で、自然景観について評価をいただき、またそれ以上に自然環境を守ってきている「共生の活動」に評価いただきました。分かりやすいのが「猛禽類医学研究所」が取り組んでいる「環境治療」です。自然環境を守りながら、様々な活動に取り組んでいるという蓄積やストーリーに高い評価をいただいたところです。
- ATWSはゴールではなく、アドベンチャートラベルのスタートという位置づけであり、一つ一つの取組をしっかりと支援していながら、これからの考え方を進めることで活かしていきたいと考えております。
- 次に姉妹都市締結から60周年を迎えた鳥取市、湯沢市と各種行事がありました。また、コロナ禍で中止であった北陽高校の台湾見学旅行を初めて実施することができました。これにあわせて、台湾プロモーションや日越外交関係樹立50周年の取組を行いました。40周年の時は、釧路に大使を招いて開催しましたがけれども、今回は「北海道フェスティバル in ハロン」がベトナムで開催され出席したところです。
- また、去年は例年のない暑さが続きました。全国では「猛暑日」や「真夏日」ですが、私どもは「夏日」になります。しかしながら、この「夏日」が19日くらいであったのが、過去最高の30日くらいになり、あわせて8月には熱中症警戒アラートが初めて発表され、今まで空調設備を考える必要がなかった釧路市でも対策が必要な状況となりました。
- 今、小中学校や公立の保育園・幼稚園にエアコンや大型扇風機を設置するほか、暑さから避難する場所を釧路では「クールシェルター」と言っており、コア3館などの市有施設にクールシェルター機能を持たせることを進めていこうとしています。
- 令和6年度は、高速道路の阿寒ICから釧路西ICの開通が予定されており、いよいよ全線開通になります。私どもはこれをしっかりと活かしていくこともありますし、合わせて根室までつなげていくこともあります。また地域高規格道路であります標津までの道路もあります。これらがつながっていくように、高速道路の利活用を進めていながら、しっかりと整備が進んでいくように進めていきたいと思っています。

- また、第8魚揚場もいよいよ完成予定であり、「水産都市くしろ」として衛生管理にしっかりと対応していこうと考えています。合わせて、陸上・海上養殖の取組であります水産の「つくり育てるもの」も含め、新たな展開に取り組んでいきたいと考えております。
- こういった取り組みを進めることで、まちの産業や強みの活性化が図られ、働く場所の確保、所得向上に結び付けていながら、人口減少社会の中で、若い世代、親になる世代の方々が暮らしやすい環境につながっていくことが重要であると考えております。
- こういったところをしっかりと進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

1 人里出没抑制等のためのヒグマの春期管理捕獲事業について

- まず、話題の一点目が、ヒグマの春期管理捕獲事業についてです。
- 北海道から今年度のヒグマの春期管理捕獲事業の実施意向調査が先月12月にあり、この補助要綱は近日示される予定です。
- 市としましては、この事業に基づいた捕獲を実施することとしましたので、そのことについてのご報告です。
- この事業は、北海道のヒグマ管理計画に基づいて行われる捕獲事業で、これまで北海道が行ってきたゴミや農作物などに執着するようになったヒグマである「問題個体」を排除する対応からもう一步踏み込んで、人里の近くにいる生息個体の捕獲を実施するものです。
- この事業は市町村が実施主体となり、北海道は捕獲に必要な許可及び経費の一部を助成します。
- 地域の背景としては、国道240号を横断する個体の目撃が多く、また令和4年度、5年度と連続して、丹頂鶴自然公園内での目撃もありました。このため、鶴丘・駒牧地区で実施を予定しています。あわせて、阿寒地域は、阿寒湖温泉地区と事故のあった布伏内地区、音別地域は農地への出没が多い霧里地区で実施します。
- 効率的な捕獲を目指し、ドローンによる個体の搜索を2月と3月に1回ずつ行う予定です。
- 今回はヒグマの捕獲技術の継承にもつながる事業であり、新人ハンターも参加する予定のため、地元猟友会との調整を密に進めます。

2 姉妹都市60周年における湯沢市への訪問について

- つづきまして、昨年から行っております姉妹都市60周年における湯沢市への訪問についてです。
- 鳥取市・湯沢市との姉妹都市提携60周年ということで、昨年は8月の「鳥取しゃんしゃんまつり」にあわせて鳥取市を訪問し、10月には両市から「釧路大漁どんぱく」にあわせてお越しいただいたところです。
- その中で、今回湯沢市を訪問するというので、私をはじめ、市議会や釧路市物産協会による公式訪問団13名を予定しており、2月10日（土曜日）から11日（日曜日）に開催される「犬っこまつり」にあわせて湯沢市を訪問いたします。
- 滞在中は、湯沢市役所への公式訪問のほか、「犬っこまつり」の開会式で、議長、物産協会会長とともに登壇し、釧路市のPRを行っていくほか、湯沢市長と一緒に、「FMゆーとぴあ」に出演する予定となっており、60年の足跡や交流についてしっかりお話し、次なる世代の皆様にも、この認識を高めるための発信をしていきたいと思っております。
- 今回の60周年事業につきましては、小学生を対象とした絵手紙コンテストの入賞者に姉妹都市を訪問いただき交流を行ったり、学校給食交流ということで、両市の郷土料理を味わってもらうなどの事業を行ってきたところであり、姉妹都市の交流というのは次の世代につなげていくことが重要という思いで進めてきたところでもあります。

- 次世代にしっかりとつながっていくことを大切にしながら行っていこうと考えており、まずは、2月の「犬っこまつり」にあわせて訪問するというご報告でした。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ヒグマ春期管理捕獲事業について、新人ハンターが参加予定とのことですが、何名で年代はどのくらいの方ですか。

(市長)

- ・年代はわかりませんが、釧路市内にヒグマの対応従事者が32名います。釧路地区が6名、阿寒地区が12名、音別地区が14名です。その中から春期管理捕獲に24名が参加し、新人は14名参加します。釧路地区で9名、阿寒地区で1名、音別地区で4名です。ベテランの方と組み合わせて従事いただきます。今回の春期管理捕獲では通常の32名に対し若干増えまして、ベテランが24名で新人が14名の38名体制で行っていきます。

(質問)

- ・新人というのは、狩猟免許が取りたての方なのか、クマ撃ちが初めてなのかかわかりますか。

(市長)

- ・クマ撃ちが初めての方です。北海道ではクマの積極的な捕獲がしばらく行われておらず、クマに関する被害があった時の対応のみになっており、実際に対応する猟友会でもシカ撃ちがメインになっていました。そのため今回の目的として新人の育成を行っていくことになっています。

(質問)

- ・ベテラン1名か2名に対して、新人1名が付いていくという体制ですか。

(市長)

- ・釧路地区ではベテラン4名に対して新人9名となっています。阿寒地区ではベテラン6名に対して新人が1名、音別地区については、ベテラン14名に対して新人が4名です。

(質問)

- ・北海道から意向調査や補助要綱が示されるとのことですが、今の状況を踏まえての市長の判断がどういうものであったのか教えてください。

(市長)

- ・今までは問題があった時に対応していくという北海道の基本的な考え方のもとヒグマ対策が行われてきました。しかしながら、現実として阿寒湖でも問題があり、事故もありました。本質的に自然との共生ということは個体をどのように管理するのかということと思っています。数が増えたときにはしっかり対応していき、数が減った時は保護していくことです。そここのところが長い間行われていませんでしたので、今回北海道が実施するという話があり、被害をなくしていくためには事業の実施は必要なことと考えています。

(質問)

- ・捕獲数に上限があると思いますが、地域ごとにどれくらいの上限を想定していますか。

(市長)

- ・現在、上限数は出されていないと伺っています。

(環境保全課)

- ・地域ごとにこれから示されるものとなっています。

(市長)

- ・個体数が把握されていない状況で、どのように上限を設けるのか疑問に思っています。

(質問)

- ・湯沢市の訪問について、市長の日程はどのようになりますか。

(市長)

- ・9日に訪問し、11日に帰釧します。

(質問)

- ・今回の震災で厳冬期の災害対策の重要性が浮き彫りになったと思いますが、市長は先ほど地域の点検や備えを進めていきたいとのことでした。津波対策はもちろんですが、厳冬期の災害対応を強化するという考えはありますか。あるのであれば具体的にプランをお聞かせください。

(市長)

- ・これまでも、中央防災会議津波ワーキンググループの中で、低体温症対策について日赤北海道看護大の先生から課題を含めながらわかりやすくお話しいただいております。しっかり考えていかなければならないということをお前提にしています。今回の能登半島地震についても低体温症対策が大きな課題となっていました。

今回の教訓としましては、すでにニュースでも出ていますが、耐震化率が50%くらいしかいっていない状況で、倒壊が非常に多かったということです。釧路市も95%の耐震化率を目標にしていますが、届いていない状況です。一般の戸建て住宅については88%、アパートなど共同住宅が82%、あわせて86%になりますので、石川県と比べると高い状況となっています。また、情報や道路などのインフラの分断です。つまり孤立です。国は早い対応を行っており、関西などから翌朝には消防隊などが集合しましたが、現地に行く手法がなかなか無い状況でした。そういった意味で、道東自動車道の阿寒ICから釧路西ICまでつながることは非常にいいことだと思っています。また、根室につながっていくという話につながっていきます。

もう一つは、高齢化率です。コミュニティは地域の中にありますけれども、珠洲市や輪島市においても50%と非常に高い高齢化率です。釧路市でも34%くらいです。こうなるとわかってはいるものの助けることができない実態があります。まちづくりから考えると、居住地の自由はありますものの、様々な世代が地域の中に暮らしていることが重要です。本当に様々な情報をいただきながら相談していくことになると思っています。

(質問)

- ・様々な教訓があったとおっしゃった中で、最も強化していきたいところはあるですか。

(市長)

- ・チェックしていかなければならないと思っています。孤立という状況を踏まえたときに、東日本大震災の時も音別の孤立がありました。そういったときにどのような対応が出来るのかを考えていく必要があります。釧路市内においても三津浦は釧路町に抜ける道路はありますものの、桂恋からの一本道路になっています。道路が分断されアクセスできなくなることが非常に問題です。このように場所場所によってどうしていくのかしっかりシミュレーションが必要だと思っています。物資があっても届かないことや時間によって必要な物資が変わりますので、点検しながら進めていこうと思っています。

2016年の台風が来た際もいち早く開通されたのが高速道路でした。道路網の要請にも関係してきますので、取り組んでまいりたいと考えています。

(質問)

- ・昨年の釧路港の水揚げが32年ぶりに全国1位になりました。これについての市長の受け止めと漁業についての課題をお聞かせください。

(市長)

- ・非常にうれしいニュースだと思っています。関係者の皆様にも感謝するところでございま

す。その中で、数年前から相談しているところですが、「水産都市くしろ」としましては、自然の恵みで成り立ってきた歴史がありますが、高い技術も持っています。世界に発信している鮮度保持や衛生管理があります。水産業を安定して確保できる形をしっかりと進めていくことも必要と思っていますので、陸上・海上養殖で「つくり育てる」ことに取り組んできました。これらを踏まえ海や自然における環境を考えていき、新しい技術を持っていきながら、これまで培ってきた技術を活かしていくことで、付加価値の向上につなげていくことを進めていき、釧路の役割や存在意義を高めていきたいと思っています。

(質問)

- ・災害支援の話に戻りますが、釧路市が今行っているまたは今後予定している支援はありますか。

(市長)

- ・昨日、市立釧路総合病院からDMA Tとして医師を含めた4名が能登総合病院に向かっています。北海道からは12～13チームが派遣を進めています。
また、家屋の危険度を判定する職員の派遣について北海道から照会が来ており、釧路市としても職員2名を派遣することが可能な旨お伝えしています。
このように基本的に北海道と連携をし、必要な対応を行っていきます。

(質問)

- ・馬主来の太陽光発電施設計画のうち、事前の許可なく保安林や普通河川に対し、土地の形質変更を行った件について、市として事業者に対し何か行政指導等を行う予定はありますか。また、今後市として計画をどのようにする予定ですか。

(市長)

- ・音別の馬主来の件については、本当に信じられないという思いです。また、ひどいやり方についてショックであり憤慨しているところです。
基本的に保安林の権限は北海道が有していますので、私どもは環境影響評価法の規定に基づく市の意見を述べることになり、昨年末にしっかりとした厳正な対応をしていただきたい旨を提出したところです。

(質問)

- ・条例に基づいた行政指導は考えていないのですか。

(市長)

- ・太陽光パネルは市のガイドラインで運用しています。市の条例やガイドラインは国のルールを超えることができませんので、その中で我々の「自然との共生」の意思を示していくほか、関係法令や相談窓口、設置者の遵守事項などを明確にして、事業者のチェック機能を確保するために作成したものです。

(質問)

- ・河川に工作物を作ったということで、河川の条例に引っ掛かると思いましたが、それについて考えはありますか。

(市長)

- ・今回は許可を得ずに掘削を行いましたので、条例違反になります。釧路市普通河川管理条例には罰則の規定があり、今後の指導等対応については検討中です。
太陽光パネルについては、国や北海道などに対して景観や希少な動植物の保護、災害への対策など全国市長会と連携し進めているところであり、あわせて今回の件につきましては北海道に普通河川管理条例に対する違反行為にも触れた中で意見を提出したところです。

(質問)

- ・提出した意見を教えていただくことはできますか。

(市長) 公文書ですので可能です。後ほど担当課よりお示しいたします。

(質問)

- ・年末にアイスホッケーの北海道ワイルズが来季のアジアリーグの申請を取り止めましたが、市長の受け止めと今後市としてワイルズとどのように関わっていくのか教えてください。

(市長)

- ・ワイルズの件については、スポーツ課から様々なことについて検討していると聞いていましたので、驚きました。報告も1月中旬くらいにあると聞いていますが、私どもは速やかにアイスホッケー連盟の会長と電話で話をさせていただきました。見送りについては受け止め、釧路アイスホッケー連盟としっかり連携して頑張りましょうと話をさせていただいたところです。今の段階ではこのような状況です。

(質問)

- ・ワイルズ側から釧路市になぜ取りやめたのか正式な説明はありましたか。

(スポーツ課長)

- ・まだ説明はありません。

(質問)

- ・アリーナの貸し出しなどについて、クレインズから引き続きワイルズに行く予定であったと思いますが、それについてはどうなりますか。

(市長)

- ・前提としてアジアリーグへの加盟がありましたが、そこを目指すということでも事前に対応できると考えていました。これからどうするかについては、釧路アイスホッケー連盟と一緒に相談していきたいと思っています。今後の展開についてはこれからだと思っています。

(質問)

- ・報告は1月中旬ということですが、報告は例えば記者会見するのか市長に直接報告に来るなど具体にどのように行われるのですか。

(スポーツ課長)

- ・記者会見をするとだけ聞いております。

(質問)

- ・市への報告を行う日程などは聞いていないのですか。

(スポーツ課長)

- ・聞いておりません。

(質問)

- ・今月、台湾のチャーター便が来るとありますが、市として乗客をもてなす取り組みはありますか。また、市長は定期便に向けてという話もされてきました。定期便になるとこちらからも行く必要がありますが、このことについて何か考えはありますか。

(市長)

- ・1月末から5往復8便のチャーターが実施されます。初便についてはお迎えの対応を行うことで進めています。

定期便については重視されてくるところであり、世界の方が動きが速いと思っております。国内も重要ですが、コロナ禍で人的なことも含めて厳しい状況になっています。女満別と連携してピーチ本社を訪問した際も、乗客がいることはわかっているにもかかわらず飛行機を飛ばすための人の確保などの準備が必要になってくることでした。そういった意味で、海外の方が非常に積極的な動きが出てきているところです。ポイントとなるのは地上の業務であり、グランドハンドリングが充実できるような仕組みを取り入れてまいります。こういっ

た形で実績を増やし、情報発信をしながら定期便化に向けて進めていければと思っているところです。

今は台湾のみならず韓国からも人気があると聞いていますので、様々なところにアプローチを進めながら国際定期便の就航に結び付けていければと考えています。

(質問)

- ・釧路港について、開港して125周年を迎えます。道内の取扱貨物量は苫小牧港が多い中で、2024年問題でオホーツクや十勝からも釧路港に流れてくるのではないかと期待があります。その中で釧路港をどのように今後発展させていくのかお聞かせください。

(市長)

- ・まさしく港とともに発展してきた街でありますので、港湾の重要性が高まってきていると思います。あわせて北海道の地形からも不凍港である釧路港は365日使用できますので非常に重視されているものと思っています。

これまで効率ということで苫小牧が中心でありました。しかし、北海道の強靱化計画の中で効率性はイコール脆弱性につながっているわけですので、4つの台風の際に苫小牧までの道が道東自動車道以外分断されたところであり、オホーツクを含めた様々なところのものが釧路港から本州に移送されました。まさにこういった自然災害や気象状況の変化を踏まえたときに、1か所に集めていくという効率のみならずバランスを持った取組がこれから間違いなく必要になってくると思っています。

その中で、令和8年の港湾計画の改訂の中で進めているところです。西港区は物流として商船を中心としながら、東港区はクルーズ船も含めて人流ゾーンとする大きな考え方で整備していきます。あわせて高速道路がつながりますし、こういった物流の道路網も含めていながら釧路港の役割が高まってくると思っています。そういった意味で、令和8年の港湾計画改訂に向けてしっかり進めていくとともに釧路西ICの開通を次に結び付けていくような成果に取り組んでいきたいと考えています。

(質問)

- ・具体的な施策はありますか。

(市長)

- ・港湾はまちづくりと一体となってきますので、リバーサイドや中心市街地を含めた中で進めていこうとワークショップや検討会を行っています。今後この中で具体的な施策を出していくものと思っています。